

環境報告書

平成28年度決算版

平成29年度「水」の絵コンクール特選作品



「海のオーケストラ」
塩草立葉小学校 5年 木下 美璃さん



「クラゲのダンス」
天王寺小学校 4年 川口 仁乃さん



「夏休みの思い出ですなど計」
片江小学校 2年 山口 純名さん

目次

1	はじめに	3
2	事業概要	4
	(1) 水道事業及び工業用水道事業の概要	
	(2) 大阪市における浄水処理	
	(3) 浄水場における物質フロー	
3	水道局における環境への取組み	6
4	低炭素社会の構築	7
	(1) 再生可能エネルギーや未利用エネルギーの活用	
	(2) 省エネルギー対策・省CO ₂ 対策の推進	
	(3) 交通・物流対策の推進	
	(4) 木や緑の活用	
5	循環型社会の形成	12
	(1) 減量化・適正処理の推進	
	(2) グリーン購入の推進	
6	快適な都市環境の確保	13
	(1) 都市景観の保全と創造	
	(2) 水環境の保全と改善	
	(3) 地盤環境の保全	
	(4) 生活環境の保全と改善	
	(5) 化学物質対策の推進	
7	環境効率を表す指標	18
8	環境会計	20
	(1) 環境会計の趣旨と導入の目的	
	(2) 対象範囲	
	(3) 環境会計（平成28年度決算版）の概要	
	(4) 環境会計（平成28年度決算版）の総括表	
	(5) 平成28年度決算におけるCO ₂ 削減効果	
9	市内での環境への負担低減に関する率先した行動の展開	22
	(1) 大阪市市内環境管理計画の取組み	
	(2) 大阪市市内環境管理計画の推進体制	
	(3) 職場改善運動（かいぜん Water）の取組みの推進	



環境報告書作成にあたって

報告対象分野 水道事業、工業用水道事業

報告対象期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日（一部情報については平成29年度のものを記載しています。）

この報告書は、平成24年4月に環境省が公表した「環境報告ガイドライン（2012年版）」を参考に作成しました。

大阪市水道局環境報告書（平成 28 年度決算版）の発行にあたって

近年、地球温暖化を始めとする地球環境の悪化が世界的に大きな問題となっています。私たちの生活基盤である豊かな地球環境を次世代に引き継いでいくためには、資源やエネルギーを大切に、環境への負荷の少ない社会を築いていく必要があります。

お客さまに水道水をお届けしている水道事業は地球環境と密接に関係し、その事業活動においてさまざまな資源を使用しています。

わたしたち大阪市水道局は、こうした環境に深く関わる事業者として、環境に配慮した事業運営を行っていく重大な責務があると考え、環境保全や環境負荷低減につながる取組みを推進しております。

これまでに、ポンプ設備をはじめとする水道施設に関する種々の省エネルギー対策の実施や、太陽光発電、水力発電の導入といった再生可能エネルギーの利用向上、さらには浄水場発生土の有効活用を始めとする廃棄物の減量化の施策などに率先して取り組むなど、さまざまな分野での環境施策を進めています。

この環境報告書は、大阪市水道局が実施するこうした環境保全・環境負荷低減の取組状況や各種取組みの成果などを総合的に報告するために、平成 16 年度より毎年作成・公表しているものです。

今後とも、水道事業と環境との関わりを明らかにしてお客さまにご理解・ご協力をいただきながら、環境にやさしい水道事業をめざして、効果的な環境施策に取り組んでまいります。



大阪市水道局長 **河谷 幸生**

2 事業概要

(1) 水道事業及び工業用水道事業の概要

① 水道事業

通水開始日	明治28年11月13日	横浜、函館、長崎に次いで全国で4番目
給水人口	2,704,557 人	平成29年4月1日現在
給水世帯数	1,576,080 世帯	平成29年3月31日現在
普及率	100 %	平成28年度
1日標準給水能力	2,430,000 m ³	平成28年度
年間給水量	403,349,000 m ³	平成28年度
1日最大給水量	1,222,100 m ³	平成28年度
1日平均給水量	1,105,066 m ³	平成28年度
家庭用1人1日平均使用水量	240 ㍓	平成28年度
導・送・配水管延長	5,231 km	平成29年3月31日現在
平均販売価格	160.5 円/m ³	平成28年度
給水原価	131.4 円/m ³	平成28年度

② 工業用水道事業

給水会社数	285 社	平成29年3月31日現在
給水工場数	349 工場	平成29年3月31日現在
1日標準給水能力	260,000 m ³	平成28年度
1日最大給水量	85,390 m ³	平成28年度
1日平均給水量	67,116 m ³	平成28年度
平均販売価格	48.9 円/m ³	平成28年度
給水原価	37.5 円/m ³	平成28年度

③ 水道局における各所属・施設ごとの電気使用量など

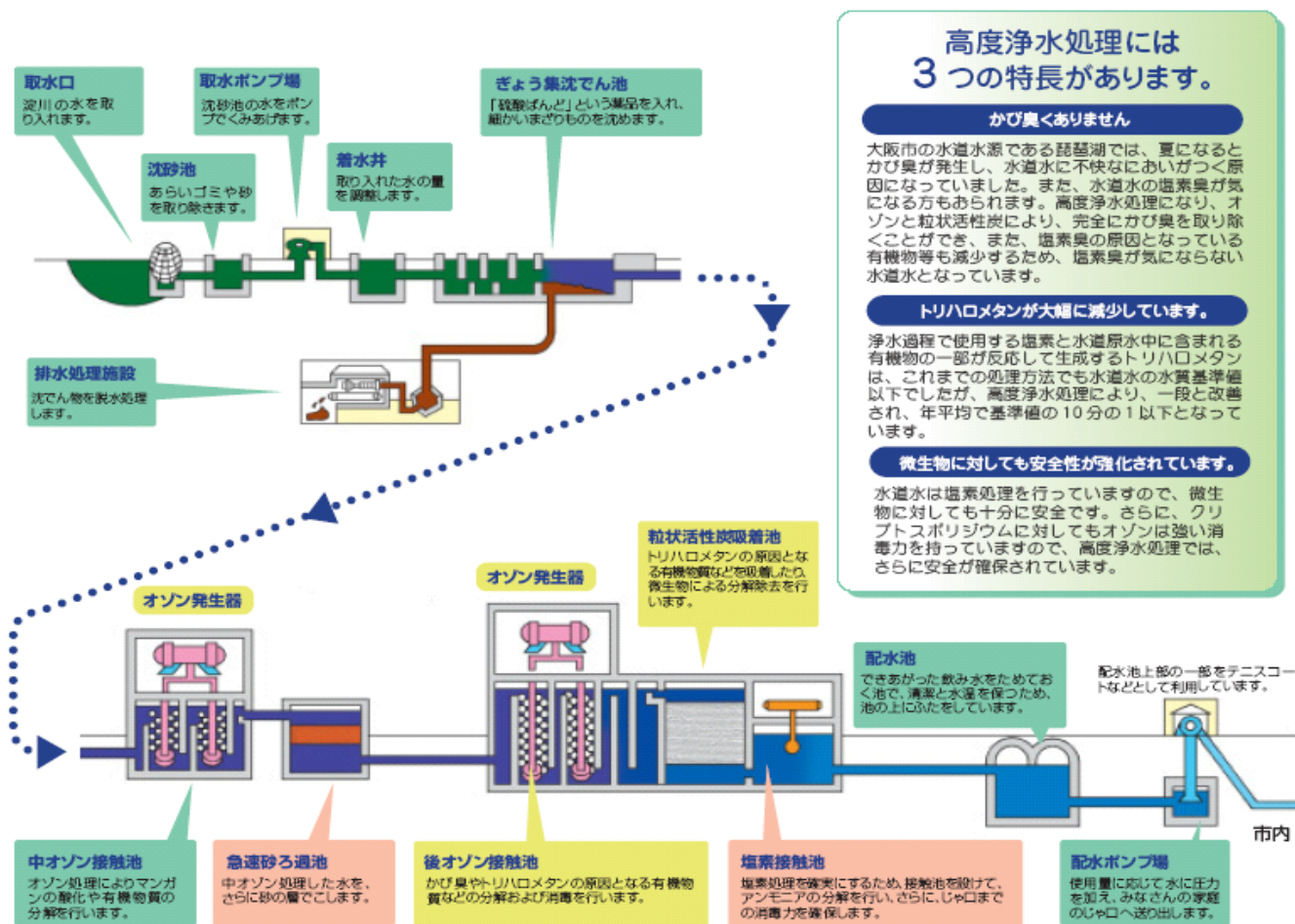
調査項目		本庁舎 合計	水道 センター 合計	浄水場等 合計	その他	全体 (総合計)	温室効果ガス 排出量 (t-CO ₂)
電気使用量 (千kWh)		484	1,859	185,724	471	188,538	95,966
燃料 使用 量	ガソリン (リットル)	—	111,245	197,677	594	309,515	305
	灯油 (リットル)	—	—	16,501	—	16,501	41
	軽油 (リットル)	—	2,090	1,553	—	3,643	9
	A重油 (リットル)	—	—	757	—	757	2
	液化石油ガス (LPG) (m ³)	—	—	73	—	73	0
	天然ガス (m ³)	—	—	—	—	—	—
	都市ガス (13A) (m ³)	—	48,336	58,081	121	106,538	238
	その他	—	—	—	—	—	—
合計							96,562

硫酸ばんど使用量 (t)	—	—	12,353	—	12,353
カセイソーダ使用量 (t)	—	—	7,587	—	7,587
次亜塩素酸ナトリウム使用量 (t)	—	—	2,692	—	2,692
濃硫酸使用量 (t)	—	—	1,122	—	1,122
紙の使用量 (A4換算) (千枚)	4,303	11,024	1,577	149	17,053



(2) 大阪市における浄水処理

大阪市の水源である、淀川の水はそのまま飲むことはできません。浄水場は、淀川の水を安全で良質な飲み水にする、いわば水の製造工場であり、1年中、24時間休むことなく水を作り続けています。水道局ではより安全で良質な水を作るため、平成10年3月から順次高度浄水処理を導入し、平成12年3月からは全浄水場で高度浄水処理を実施しています。



(3) 浄水場における物質フロー

安全で良質な水を安定してお届けするために、水道局ではさまざまな業務を行っていますが、このフローは、取・浄・配水場業務における物質フローを表しています。(平成28年度実績)



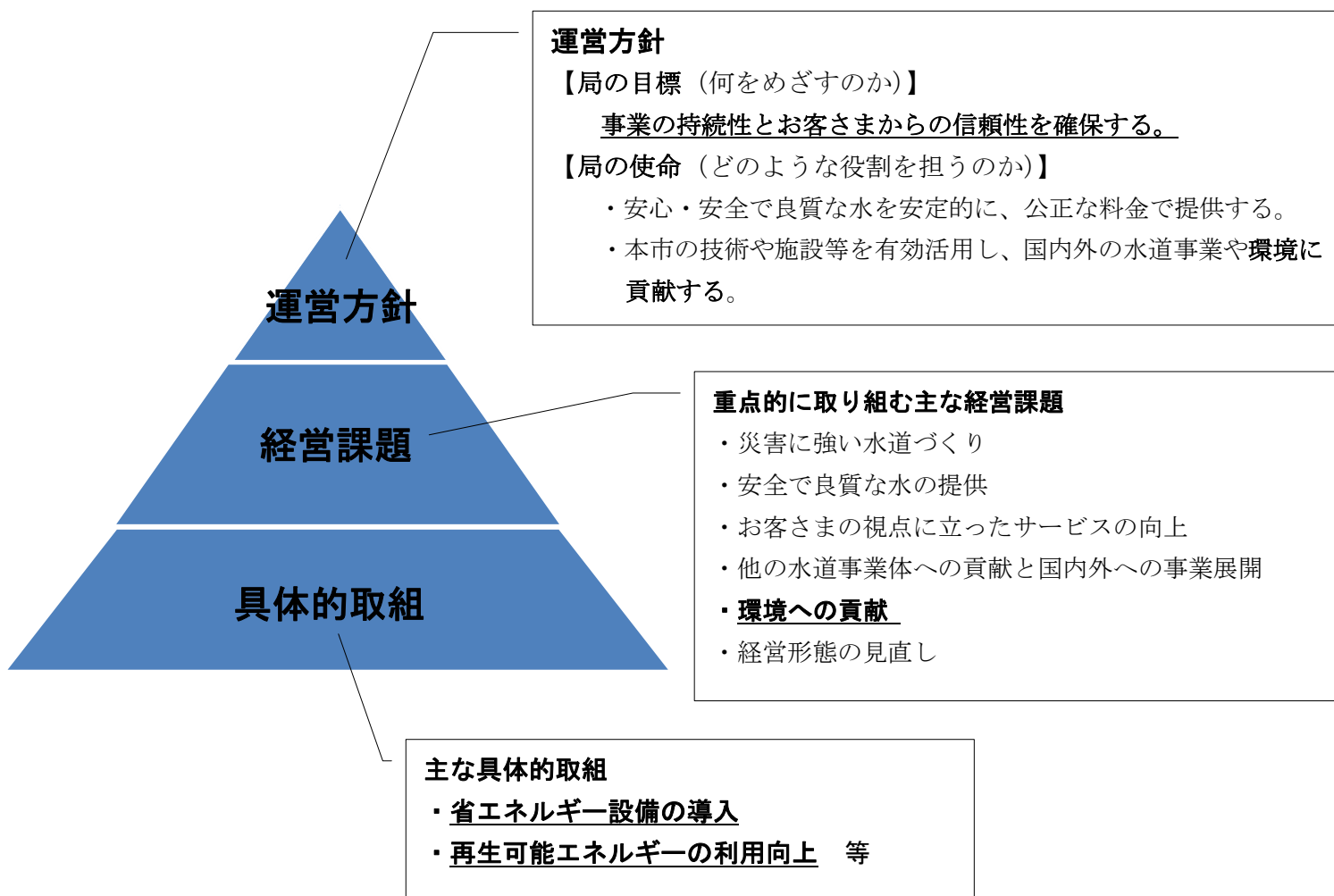
※ CO₂、NO_x及びSO_x排出量については、国及び電力会社が公表した原単位を電気使用量に掛け合わせて算定しました。

3 水道局における環境への取組み

水道局の取組み

水道局では、毎年度運営方針を策定し重点的に取り組む主な経営課題の一つとして「環境への貢献」を掲げ、環境への負荷の少ない社会を築くために水道事業に関する消費電力の低減化を図るなど地球環境保全への取組みを行っています。

具体的な取組みとして「省エネルギー設備の導入」等を推進するなど、水道事業活動から生じる環境負荷の低減を図っています。



水道局の運営方針についてはこちらをご覧ください。

<http://www.city.osaka.lg.jp/suido/page/0000135272.html>

